

解剖訓蒙 神經論 卷



Y994-J10255
1200901349508

509

其子九

Kodak Gray Scale

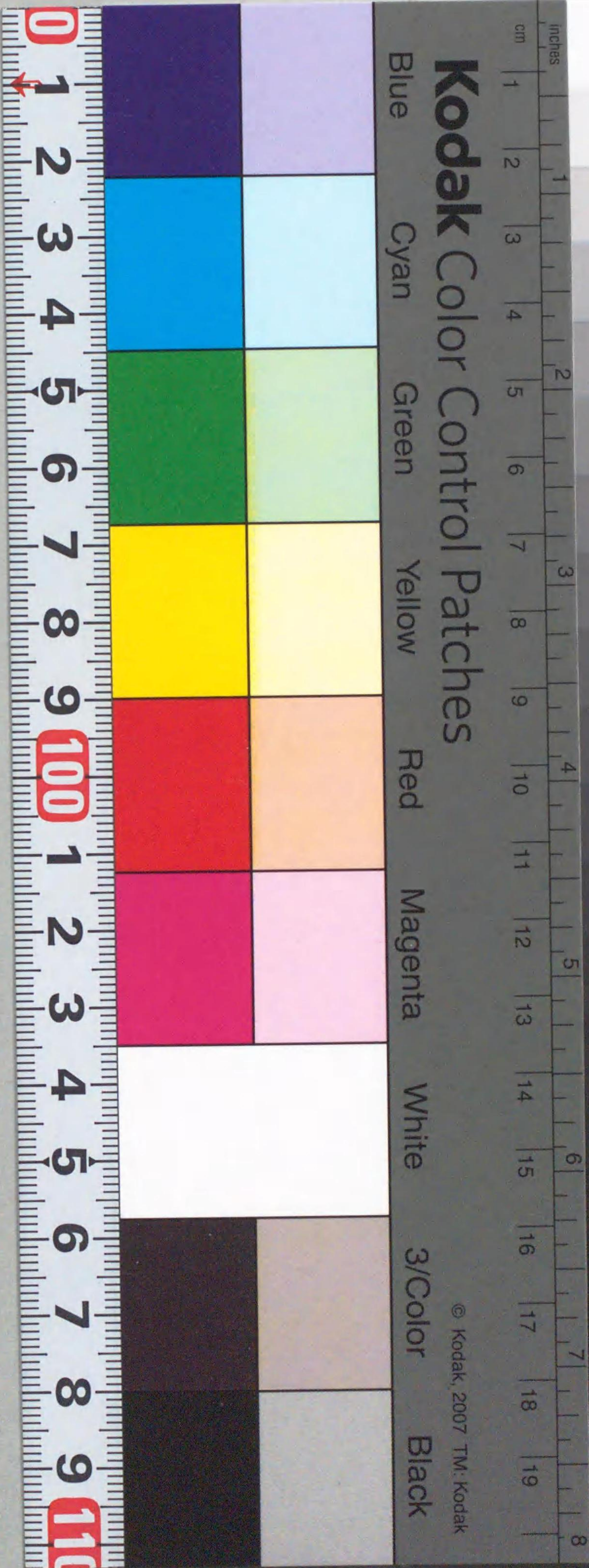
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black





甲
ウ
ル
テ
ラ
ル
子
ル
ウ
ス

Y994

J10255

解剖訓蒙卷之十八

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 文部省出仕副島之純譯

神經論

脊髓神經

甲
脊
髓
神
經

子スバ井ナルハ凡テ三十一對ノ脊椎

柱ニ関涉スルニ從テ區別シテ頸神經八對、背神

經十二對、腰神經五對、薦骨神經五對、尾骶骨神經

一對ト做ス

此神經ハ皆十前後兩根ニテ、脊髓ノ前側后側兩

解剖訓蒙

卷之十八

一



I 種
W



1200901349508

裂間ヨリ起ル此两根ハ各其起點ヨリ輻輳スル
 扁平ナル縦條ヨリ成レリ、而テ前根ハ上方二對
 頸神經ヲ除ク他皆十后根ニ比スレハ其條巨大
 且ツ許多ナリ益シ此根中最大ナル者ハ上肢ニ
 布蔓スル下方四對頸神經及ヒ初對背神經ノ根
 ト下肢ニ布蔓スル下方三對腰神經及ヒ上方二
 對薦骨神經ノ根ナリ
 前後两根ハ椎間薦骨二孔ニ對シテ會合シ其側
 ノ局分區別セル硬膜孔ヲ穿貫ス
 脊髓ハ脊椎柱ニ比スレハ短燧ナルヲ以テ此神

經根硬膜ヲ穿貫スル部位ニ達セテ爲メニ初對
 而リ終對ヲテ逐次ニ延長シテ其方向モ亦隨テ
 傾斜シ始メ横緯ニシテ終ニ一直線ト爲ル故ニ
 腰薦骨尾骶骨三神經ノ根ハ聚合シテ厚キ一束
 ト爲ル硬膜莢ノ下部ヲ填實スル
 后根ハ帶赤灰白色ノ卵圓形神經節ヲ具有シテ
 此ヨリ纖維ヲ副加シ前根ハ此神經節ニ抵觸ス
 此等纖維ヲ副加セテ而テ两根共ニ此神經節
 直外ニ於テ會合シ其幹ハ脊髓神經ト爲レリ脊
 此神經ハ其幹短圓ニシテ两根ノ纖維ヲ混合シ

薦骨、尾骶骨兩神經、他皆十椎間孔ヨリ出テ、而
 后千、前后兩枝ニ分岐ス。薦骨、尾骶骨兩神經ハ脊
 椎管中ニ於テ、既ニ前后兩枝ニ分岐シ、而后千各
 其薦骨孔ヨリ出ツ。初對脊髓神經ヲ除ク他、都テ其前枝ハ后枝ニ比
 スレハ巨大ニシテ、四肢及ヒ脊椎柱前方ノ軀幹
 一部ニ布蔓シ、后枝ハ軀幹ノ后部ニ布蔓ス。
 前根ハ、其官運動ヲ主宰シ、后根ハ、知覺ヲ管司シ
 而テ此兩根ノ混合ニテ形成スル神經ハ、知覺運
 動兩機ヲ併セ主サトリ、頭顱ヨリ以下、全身ノ筋

甲子ル寧セカールス

及ヒ皮膚ニ布蔓ス

頸神經

頸神經子セルガスハ、都テ八對有リ、初對ハ枕骨

ト頸椎ノ第一片トノ中間ニ於テ、脊椎管ヲ出テ

終對ハ、頸椎ノ第七片ト背椎ノ第一片トノ中間

ニ於テ、椎間孔ヲ出シ、而テ初對ヨリ終對又テ、次

第ニ其大サヲ加テ、脊椎管ヲ出テ、直チニ前后兩

枝ニ分岐ス

中間頸神經后枝

初對頸神經ハ后枝

其前枝ニ比ス

大ニシテ頸椎第一片ノ弓ト脊椎動脈トノ
 中間ヨリ出テ分散シ諸纖維ト爲シ其一個ノ纖
 維ハ下行シテ第二對ニ結合シ自餘ハ其近傍ノ
 直筋斜筋錯綜筋ニ布蔓ス
 第二對頸神經ノ后枝ハ頸神經ノ后枝中最大ナ
 ル者ニシテ頸椎ノ第一第三片ノ弓ノ中間ヨリ
 出テ第一對ノ結合纖維ヲ接取シ而后チ内外兩
 枝ニ分歧ス而シテ其外枝ル、エキス、テ、ル、ナ、ハ、錯綜筋、
 夾板筋及ヒ頸乳頭筋ニ布蔓シ内枝ル、イ、ン、テ、ル、ナ、
 大枕骨神經ハ、甲、ビタ、ル、子、ル、ウ、ト、稱、ス、ル、者、ニ、シ、テ、錯

甲子ヲシテタリス、マダノス

綜筋及ヒ僧帽筋ヲ穿貫シ枕骨動脈ト共ニ枕骨
 ノ筋皮膚ニ布蔓ス下方六對頸神經ノ后枝ハ頸
 椎ノ横突起間ヲ沿ヒ舌方ニ通過シテ内外兩枝
 ニ分歧ス而シテ其外枝ハ上行頸横頭頸乳頭ノ三
 筋ニ布蔓シ内枝ハ前者ニ比スレハ大ニシテ第
 三四五對ヨリスル者ハ内方頸椎ノ棘狀突起ニ
 向ヒ而后チ外方ニ向フテ皮膚ニ布蔓ス下方三
 對ヨリスル者ハ錯綜半棘分裂棘三筋ニ布蔓ス
 頸神經前枝ハ三對ニ分ルル者ニシテ
 頸神經ノ前枝ハ初對ヨリ終對マ

解可リ

卷之十八

日

天、漸次ニ加大シ、皆十前方ニ向テ、脊推動脈ノ外
 側ニ至ル、其初對ノ三、特ニ頸椎第一片ノ上方、脊
 推動脈ノ地平上ニ位ス
 上方四對頸神經ノ前枝ハ或ハ各分岐シ、或ハ互
 ニ合吻シ、以テ一列ノ環狀ヲ形成ス、之ヲ頸叢ト
 稱ス
 下方四對頸神經ノ前枝ハ、前者ニ比スレハ甚々
 巨大ナリ、亦々或ハ分岐シ、或ハ合吻シ、且ツ初對
 背神經ノ前枝ニ合吻シ、以テ上臂叢
 プラキチシユル
 スヲ形成ス

甲乙キミスセル并カリ

頸叢

頸叢 セル并カリ レキシユス ハ、上方四對頸神經ノ前枝ノ
 分岐合吻ニテ形成シ、頸椎ノ上方四片ニ對シ、胸
 骨乳頭筋ノ底下、即チ中不齊筋、及ヒ肩胛角舉筋
 ノ上ニ占居シ、合吻纖維ニテ、交感神經ノ上頸神
 經節、交感神經幹、及ヒ肺胃副行、舌下ノ三神經ニ
 結合シ、上臂叢、前葉ヲ資給シ、且ツ左ノ枝別ヲ
 分與ス

諸筋枝

小枕骨神經
 鎖骨上神經
 大耳神經
 橫隔神經

甲子、スル、シ、ル、コ、ル、リ

第一諸筋枝 マ、ス、キ、ユ、エ、ハ、不齊筋、長頸筋、前直筋、

側直筋、肩胛角舉筋、胸骨乳頭筋、僧帽筋、ハ、布蔓、ハ、

第二表頸神經 ル、ソ、ペ、ル、イ、シ、ア、ル、セ、ハ、第二、三、兩頸

神經ノ、合吻ニ、ハ、形成シ、胸骨乳頭筋ノ、后縁ヲ、廻

轉シ、此筋ト、頸皮筋ト、ノ、中間ニ、在リテ、前方ニ、進

行シ、ハ、上行、下行、兩枝、ハ、ア、ス、セ、デ、ン、ダ、ン、ダ、ン、ダ、ン、ダ、ン、

分岐シ、ハ、甲、ハ、頸皮筋及ヒ、頸上部ノ、皮膚ニ、布蔓、ハ、

顔面神經ノ、纖維ニ、合吻ス、ハ、乙、ハ、頸ノ、下前部ノ、皮

膚ニ、布蔓ス、ハ、ハ、ハ、胸骨乳頭筋ノ、

第三大耳神經 キ、グ、リ、ト、ア、ウ、リ、ハ、ハ、胸骨乳頭筋ノ、

乙子、ア、キ、ユ、ラ、ス、マ、ク、ス

甲子、ス、ル、シ、ル、コ、ル、リ

后縁ヲ、廻轉ス、其外面ヲ、上行シ、外耳ト、耳下腺、及

ヒ、乳頭突起ヲ、被覆スル、皮膚ト、ニ、布蔓ス、ハ、蓋シ、此

神經ノ、二、三、纖維、ハ、顔面、肺胃兩神經ノ、枝別ニ、合

吻ス、ハ、ハ、ハ、胸骨部ノ、諸筋及ヒ、皮膚ニ、

布蔓ス、ハ、ハ、ハ、通常三個有

第五鎖骨上神經 エ、ソ、プ、ラ、ク、ラ、ハ、ハ、通常三個有

ハ、第四對頸神經ヨリ、來リ、胸骨乳頭筋、僧帽筋ノ、

乙子、ア、キ、ユ、ラ、ス、マ、ク、ス

甲子フレニコス

中間ヲ下行シ鎖骨胸部及肩胛部ヲ被覆スル
皮膚ニ布蔓ス

第六横隔神經子フレニコスハ、頸叢ノ最モ緊要ナル

枝ニシテ第三四兩對頸神經ヨリ來テ第五對頸

神經、即チ上臂叢ノ初端ヨリ萌蘗ヲ受テ前不齊

筋ヲ下行シ鎖骨下動靜兩脉ノ中間ニ於テ胸腔

ニ竄入シ、胸膜ト心囊ノ中間ニ於テ肺根ノ前方

ヲ下行シ、横隔ニ布蔓シ其經歷中、交感神經ノ下

方二個ノ頸神經節ヨリ、合吻纖維ヲ受容シ心囊

ニ纖維ヲ分授ス

上臂叢

上臂叢レブラチアルハ、上肢ニ布蔓スル者ニシ

テ下方四對頸神經、及チ第一對背神經兩前枝ノ

分歧合吻ニテ形成シ、頸椎ノ側方ヨリ腋下ニ瀾

漫シ烏啄突起ニ對シテ分歧シ、數個ノ大ナル延

長ト爲シ、其經歷中、前中兩不齊筋ノ中間ニ在テ

外方ニ通過シ、鎖骨ノ底下ヲ下行シ、腋下

ニ達ス而テ始テ鎖骨下動脈ノ上方ノ稍后方ニ

倅シ、其后方ニ位シ、終ニ擴張シテ諸枝ト爲

ス此脉ノ圍擁スル變態異汗管トマシ

蓋此叢ノ成形ハ變態異狀有リテ一定セズ其
 最モ尋常一様ナル者左ノ如シ第五對頸神經斜
 ヲニ下行シテ第六對頸神經ニ結合シ一幹ト爲
 リ此幹又々第七對頸神經ニ締着シ以テ一大幹
 ヲ形成ス第一對背神經斜ヲニ上行シテ第八對
 頸神經ニ結合シ亦々一幹ヲ形成ス如此クシテ
 形成スル兩幹各々一枝ヲ分授シ此枝互ニ束縛
 シテ第三幹ヲ形成ス此三幹中甲ハ腋下動脈ノ
 外側乙ハ其内側丙ハ其后方ニ位シ而テ三幹共
 ニ枝別ヲ上肢ニ分與ス

此叢鎖骨ノ上方ニ於テ分與スル枝別ハ多分胸
 及ヒ肩胛ニ布蔓シ鎖骨ノ下方ニ於テ派付スル
 枝別ハ此叢ノ末枝ニシテ多分上肢ノ全經ニ達
 ス乃チ左右ノ枝別是ナリ

諸筋枝
 肩胛上神經
 胸神經
 肩胛下神經
 小皮神經
 内皮神經
 外皮神經
 廻旋神經
 中神經

尺骨神經
 筋螺旋神經
 第二諸筋枝
 筋螺絲神經
 上臂叢ノ初端ヨリ來
 此不齊筋長頸筋菱狀筋上鋸筋及ヒ鎖骨下筋ニ

解剖圖

甲子ノブラスカヒユリス

布蔓ス

第二肩胛上神經 ユソプラスルダカビ 上臂叢ノ外幹

ヨリ來リ、外後方ニ進行シ、肩胛上孔ヲ穿通シテ、

棘止棘下ノ兩筋ニ布蔓ス

第三胸神經 チソラダス ハ、前後兩個アリ、右胸神經

ポステリオルソ ハ前者ニ比スレハ長大ニシテ、

第五六兩對頸神經ヨリ來リ、大鋸筋ノ前部ヲ下

行シ、此筋ニ布蔓ス、前胸神經 アシンテリオルダス

ハ、通常兩枝ヨリ成リ、上臂叢ノ内外兩幹ヨリ來

リ、鎖骨ノ底下ヲ經過シテ、胸筋ニ布蔓ス

乙子ノラシコスホネイオル

丙子ノラシコスホネイオル

甲子ノブラスカヒユリス

第四肩胛下神經 ソブスカビユ ハ、三個アリ、第一

對背神經ヲ除ク他、都テ上臂叢ノ神經ヨリ來レ

ル纖維ニテ起ル、而テ三個中最大ナル者ハ、肩胛

下筋ノ外側ニ沿テ下行シ、潤背筋ニ布蔓シ、其二

三ノ纖維ハ、下鋸筋ニ到ル、自餘兩者ハ、肩胛下筋

及ヒ圓筋ノ上部ニ到リ、此兩筋ニ布蔓ス

第五小皮神經 ニモリスユダ ハ、上臂叢ノ初對

背神經ヨリ來リ、腋下脉及ヒ上臂脉ノ内側ニ沿

テ下行シ、殆ト上臂ノ中央ニ到リ、而後、上臂筋

莖ヲ穿貫シ、皮膚ノ底下ヲ進行シ、内髁ト鈎狀

乙子ノラシコスホネイオル

突起ノ中間即子肱關節ニ達ス其經歴中肋間上
臂神經ニ合吻ニ上臂ノ下方内側ノ皮膚ニ布蔓
ス

上臂叢ノ自餘ノ枝別ハ概子皆十其末枝ニシテ
腋下ノ下部ヨリ來ル多分上肢ノ全經ニ達ス

第六^甲内皮神經タイニトヒナルキユ
タニユトスチルグハ上臂叢ノ内
幹ヨリ來ル上臂脈ノ内側ヲ下行シ其中央ニ到

リ筋莢ヲ穿貫シテ大小兩枝ニ分岐ス小枝一スモ
ニルヲ 貴要靜脈ノ内側及ヒ内髀ヲ後方ニ下行
ニチ

シ下臂後部ノ皮膚ニ布蔓ス大枝ブラニルチハ上

甲子キニタニ子ス又ニタス

甲子キニタニ子ス又ニタス

臂下臂ノ内前部ヲ下行シ其近傍ノ皮膚ニ布蔓
シ而テ其枝別中一個ハ肱關節ニ於テ中貴要靜
脈ノ上方ヲ通過シ自餘ハ下方ヲ經行シテ殆ト
此脈ノ貴要靜脈ニ終ル所ニ達ス蓋シ大枝ハ此
神經ノ延展ニシテ此神經ハ上臂叢ノ内幹ノ末
枝中最小ナル者ナリ

第七^甲外皮神經エキストルナルキユ
タニユトスチルグハ上臂叢ノ

上部ノ神經ヨリ來ル烏啄上臂筋ヲ穿貫シ兩頭
屈筋上臂筋ノ中間ヲ通過シテ上臂ノ外部ニ到

ル爰ニ於テ上臂筋莢ヲ穿貫シテ兩枝ニ分岐ス

解川

甲子、シルコムエキス

其一枝ハ中脳静脈ノ前方ヲ過キ、一枝ハ下方ヲ
 経テ共ニ下臂ノ外部ニ沿ヒ、腕關節ニ下行シ、其
 經歷中鳥啄上臂兩頭上臂ノ三筋ニ枝別ヲ分付
 シ而テ末枝ハ多分下臂外部ノ皮膚ニ布蔓シ、寂
 少ナル者ハ、撓骨神經及ヒ筋螺旋神經ノ纖維ニ
 合吻ス、此神經ハ前者ニ比スルハ大十リ、末
 第八廻旋神經キス、子ルムウレハ、後廻旋脈ト共ニ
 上臂骨ノ上部ヲ回轉シ、小圓筋、三角筋ニ布蔓シ、
 其一二ノ枝別ハ、肩胛關節ト、上臂後部ノ皮膚ト
 ニ布蔓ス

甲子、メシアノス

第九中神經メジアン

來リテ、腋下動脈ヲ圍擁スル兩根ニテ起リ、上臂
 動脈ニ接シテ下行シ、肱關節ニ到リ、其前方ヲ横
 行シテ、方廻前筋ノ底下ヲ經テ、後キ淺諸指屈筋
 ト、深諸指屈筋ノ中間ヲ過キ、腕關節ニ到リ、環狀
 靱帶ノ底下ヲ通シテ、手掌ニ達シ、其經歷中、左ノ
 枝別ヲ分與ス

イ 諸筋枝

六、ス、キ、ユ、エ、ハ、撓腕屈筋ヲ除ク他、下

ロ 前骨間神經

ル、ア、シ、テ、リ、オ、ル、イ、ン、ト、ル、ノ、同、名、ノ

乙 子、イントルカシテス、イントルカス

甲

乙

甲
子、ハルミス、ソベル
オシアリス

動脈ヲ從ヒ、下臂ノ前部諸深筋ニ布蔓ス

〔^甲表掌枝〕ハ、腕關節近傍ノ

下臂筋莖ヲ穿通シ、手掌ノ皮膚ニ到ル爰ニ布

蔓ス

〔^乙三筋枝〕ハ、拇指球ノ諸筋ニ布蔓ス

〔^丙示指神經〕ハ、五指有以、初ノ兩個ハ、拇

指ヲ兩側ニ到リ、中個ハ、示指ノ外側ニ沿テ走

行、終ニ兩個ハ、第二第三掌骨ノ中間ヲ進行

ス、夫、各、兩枝ニ分岐シ、而后チ示指、中指及ヒ環指

ノ相對スル側ニ布蔓ス、蓋シ最終一個ハ、尺骨

神經ヨリ交通枝ヲ受ク

此神經ハ、皆十第一指骨ノ根蒂ニ於テ、各、背枝

ガドレシナルヲ分岐ス、其背枝ハ、指背ノ縁ニ沿テ

走り、指ノ尖頭ニ到リテ、兩枝ニ分岐シ、一枝ハ

指尖ニ一枝ハ爪下ニ布蔓ス

第十〔^甲尺骨神經〕ハ、上臂叢ノ内外兩幹ヨ

リ來リ、中神經ノ后方ヲ下行シ、此神經ト次第ニ

離隔シテ、鈎狀突起及ヒ内髌ノ中間ニ到リ、尺腕

屈筋ノ起點ヲ穿貫シテ、此筋ト深諸指屈筋ノ中

間ヲ進行シ、腕關節ニ到リ、豆骨ニ接シテ、環狀韌

帶ヲ形成ス

帶ヲ起シ、手掌ニ到ル、蓋シ此神經ハ、中神經ニ此
スレハ小ニシテ、其經歷中、左ノ枝別ヲ分與ス

イ 關節枝 ブラチキユエハ、肱關節ニ布蔓ス

ロ 筋枝 オラスキユラハ、尺腕屈筋及ヒ深諸指屈

筋ニ布蔓ス

ハ 皮枝 スキユラニユスハ、下臂内部ノ皮膚ニ布

蔓ス

ニ 背枝 ブドルサルチハ、尺腕屈筋ノ腱下ヲ通過シ

テ、手背ノ皮膚ニ布蔓ス

ホ 深掌枝 ルデゾラニパルマハ、同名ノ脉ニ從ヒ小

甲子トルサリス、メノス

指ノ諸小筋、骨間筋及ヒ蟲狀筋ニ布蔓ス

ハ 指神經 チルダタルハ、二個有リ、一ハ短掌筋ト、

手ノ内部ノ皮膚ニ、枝別ヲ分與シ、而后チ小指

ノ内側ニ沿テ走リ、一ハ終掌骨ノ間隙ヲ通過

シ、中神經ノ終指神經ニ、前葉ヲ分資シ、后チ兩

ニ枝ニ分岐シ、環指小指ノ相對スル兩側ニ布蔓

ス

第十一筋 甲 **螺旋神經** マキユロスハ、上臂叢ノ

后幹ヨリ、來ル三頭伸筋ト、上臂筋ノ中間ニ於テ

表穿通動脈ト、共ニ上臂ノ后部ヲ半廻シ、長廻后

甲子マキユロス、イリス

筋ト、上臂筋ノ中間ヲ下行シ、腕關節ニ到ル爰
 ニ於テ、橈骨、后骨間兩神經ニ分岐シ、其經歷末三
 頭伸筋、肘筋、上臂筋、長廻后筋、及ヒ長撓腕伸筋ニ
 筋枝 マス、キユラ、ヲ分與シ、上臂及ヒ下臂ノ内側
 ニ於ケル皮膚ニ皮枝 スキ、プラ、ニユス、ヲ分與シ、蓋
 シ此神經ハ、上臂叢ヨリ來レル神經中、最大ナル
 者ナリ、
 イ、撓骨神經 ラ、ジ、アル、ハ、下臂ノ外側ニ沿テ走
 リ、長廻后筋ノ腱下ヲ通過シ、筋莖ヲ穿貫シテ、
 枝別ト爲ル、此枝別ハ、外皮神經ニ合吻シテ、手

甲下ルサル子ルダス

ノ外后部、手背及ヒ、拇指、示指、中指ノ背部ニ於
 ケル皮膚ニ布蔓ス、此神經ハ、母幹ノ兩枝中、小
 ナル者ナリ、
 ロ、后骨間神經 ポ、ス、テ、リ、オ、ル、イ、ン、ト、ハ、短廻后
 筋ノ底下ヲ通過シテ、下臂ノ后部ニ到リ、爰ニ
 於テ枝別ト爲リ、長撓腕伸筋ヲ除ク、他ノ諸伸
 筋ニ布蔓ス、其末枝ハ骨間膜ヲ下行シテ、腕關
 節ノ后部ニ到リ、爰ニ布蔓ス、
 背神經 サ、ル、ダ、ス、ハ、十二對有リ、初對ハ、背椎ノ上

背神經 ソ、ラ、ダ、ス、ハ、十二對有リ、初對ハ、背椎ノ上

甲下ルサル子ルダス

方二片ノ中間ニ於テ椎間孔ヨリ出テ終對ハ背
 椎ノ第十二片ト、腰椎ノ第一片トノ中間ニ於テ
 椎間孔ヨリ出以而テ初對ハ最大ニシテ他ノ對
 ハ其大サ皆均一ニテ、各椎間孔ヲ出ル后矢前後
 兩枝ニ分岐ス

背神經后枝

背神經ノ后枝 ボステリオルモ、亦夕前枝ニ比ス
 レハ小ナリ、背椎横突起ノ中間又后方ニ廻轉シ
 テ内外兩枝ニ分岐ス
 外枝 エキセントリス ハ初對ヨリ終對ニ到ルマテ

次第ニ其大ヲ加テ長背筋ト薦骨腰筋ノ中間ニ
 露出シテ此兩筋ニ布蔓ス下方ノ六對ニ於テハ
 此兩筋ニ布蔓スル他更ニ皮枝 キユタニユリス
 分與ス此皮枝ハ下鋸濶背二筋ヲ穿通シテ肋骨
 角ノ近傍ニ於ケル皮膚ニ布達ス
 内枝 インセントリス ハ上方六對ニ於テハ分裂筋
 ト半棘筋ノ中間ニ露出シテ此兩筋ニ纖維ヲ分
 與シ而後チ背椎棘狀突起近傍ノ皮膚ニ布蔓ス
 下方六對ニ於テハ分裂棘筋ニ終ル

背神經前枝

背神經前枝

前枝 アラシテ 八、各分散シテ、自餘ノ脊椎神經ニ於ケル如ク合吻セサルヲ以テ、叢ヲ形成セ
 ス、唯夕其初端ハ、一對ノ合吻纖維ニテ、其近傍交
 感神經ノ背神經節ニ交通ス、初對ニ於テハ、自餘
 ニ比スレハ大ニシテ、肋骨ノ初片ヲ超越シ、上行
 シテ、上臂叢ノ一部ヲ形成シ、其經歷中、一小枝ヲ
 分與ス、之ヲ初對肋間神經コリスト、イルレト
 稱ス、第一肋間隙ヲ進行ス、自餘ノ十一對ニ於テ
 ハ、其大サ概子同一ニシテ、終對ノ他皆十肋間神
 經イルト、ルゴスト爲リ、肋間隙ニ在リテ、外方ニ

進行ス

終對ノ前枝

ハ、肋骨終片ノ下方ニ位シ、方腰筋ヲ

横行シテ、内斜腹筋ト横腹筋ノ中間ヲ進行スル、

恰モ肋間神經ノ肋間隙ヲ進行スル如シ、蓋シ其

初端ニ於テ、屢初對腰神經ニ、合吻纖維ヲ分與ス

肋間神經

肋間神經

イルト、ルゴスハ、其數十一對アリ、初對

ハ、細小ナル枝ニシテ、初對背神經ノ前枝ヨリ來

ル第一肋間隙ノ筋ニ布蔓ス、自餘十對ハ、第二乃

至第十一對背神經ノ前枝ヨリ來、以下方十個ノ

申子イントルゴス、タルス

甲ラキエタ子、イトルニ

肋間隙ヲ外方ニ進行ス始メハ外肋間筋ニ占據
 シテ同名ノ動靜兩脉ハ下方ニ在リ次ニ内外兩
 肋間筋ノ中間ヲ通過シ而後チ内肋間筋ヲ穿貫
 シテ此筋ト胸膜ノ中間ヲ進行ス而テ終ニ上部
 ノ者ハ肋間隙ノ前部及ヒ大胸筋ヲ穿貫シテ胸
 前皮神經アシテリオル、キユタニユイト為リ胸
 壁前部ノ皮膚ニ布蔓ス下部ノ者ハ胸下縁ノ肋
 軟骨ヲ超越シテ内斜腹筋ト横腹筋ノ中間ヲ進
 行シ直腹筋ニ至リ此ヲ穿貫シテ腹前皮神經テリオル、キユタニユイト為リ腹壁前部ノ
 ルダスヲダゼ、アブドローメン

乙ラキエタ子、イトルニ

甲ラキエタ子、ラテラス

中線ヲ了ル、其經歷中、近傍ノ諸筋ニ、枝別ト兼テ
 都テ此神經、其經歷中、近傍ノ諸筋ニ、枝別ト兼テ
 側皮神經ラテラス、キユタニユイト為リ腹壁前部ノ
 外肋間筋ヲ穿貫シテ、大胸筋ノ下部ト外斜腹筋
 ノ上部ノ中間ヲ通過シ、胸腹側部ノ皮膚ニ布蔓
 ス蓋シ第二對ノ側皮枝ハ、所謂肋間上臂神經ニ
 合吻シ、上臂内部ノ皮膚ニ布蔓ス
 肋間上臂神經
 腰神經チロバ、スル、五對有リ、初對ハ、腰椎ノ初片

乙チロバ、スル

第二片トノ中間ニ於テ、椎間孔又出テ終對ハ、
 腰椎終片ト、薦骨トノ中間ニ於テ、椎間孔ヲ出
 ヲ皆テ頸神經背神經ノ如ク前後兩枝ニ分岐ス
 後枝 ボステリオル、ハ、腰椎横突起ノ中間ニ後方
 ニ進行シ、長背筋ト、薦骨腰筋トノ中間ヲ穿貫シ
 テ此兩筋ニ枝別ニ分授シ、且ツ其近傍ノ皮膚ニ
 纖維ヲ分與ス、蓋シ此枝中下位ノ者ハ、上位ノ者
 ニ比スレハ、次第ニ増大ス
 前枝 アランテリオル、ハ、斜ノニ外下方ニ進行シテ、
 半ハ腰筋ヲ穿貫シ、半ハ其後方ヲ通過シ爰ニ於

テ上位ノ者ハ、下位ノ者ニ萌蘗ヲ給資以テ上
 方四對ニ於テハ、如此ク合吻シ、且ツ終對背神經
 ヲ以、纖維ヲ受容シ、以テ腰叢ヲ形成シ、第四對ニ
 於テハ、其萌蘗第五對ト共ニ薦骨叢ノ一部ヲ形
 成シ蓋シ此枝モ亦タ次第ニ増大シ、其初端ニ於
 テ各一對ノ吻口纖維ニテ、其近傍交感神經ノ腰
 神經節ニ交通ス

腰叢

腰叢

ロキシハ、スハ、上方四對腰神經ノ前枝ト、終

對背神經ノ纖維トノ合吻ニテ形成シ、兎筋及ヒ

甲フレキシスロニリス

角音詩蒙 卷之十一
方腰筋ニ布蔓スルノ他ニ左ノ枝別ニ分與セ

腸骨下腹神經 腸骨鼠蹊神經

生殖脚神經 外皮神經

鎖孔神經 脚神經

第一腸骨下腹神經 アイルクハイルボガハ 初對腰

神經ヨリ來ル免筋ヲ貫穿シ、方腰筋ヲ橫行シ、腸

骨嶠ニ到ル而后チ又夕橫腹筋ヲ通徹シ、此筋ト

内斜腹筋ト中間ヲ進行シテ、鼠蹊管ニ到リ此

管ヲ下行シテ、耻骨ヲ覆エル皮膚ニ布蔓ス

甲子アイルクハイルボガハ

甲子アイルクハイルボガハ

第二腸骨鼠蹊神經 アイルクハイルボガハ 前者ト共

ニ初對腰神經ヨリ來ル亦夕免筋ヲ穿テ、腸骨筋

ヲ橫行シテ、ボトハルト韌帶ニ到ル而后チ橫腹

筋ヲ貫ヌキ、鼠蹊管ヲ下行シ、或ハ陰莖及ヒ陰囊

或ハ肉様尖及ヒ陰唇ノ皮膚ニ展布ス

蓋シ以上兩神經ハ、其大小一定セス、通常一個細

小ナルハ、他個増大シ之ヲ補助ス

第三生殖脚神經 アイルクハイルボガハ 第二對腰神經

ヨリ來ル免筋ヲ穿通シ、其前面ヲ下行シテ、兩枝

ニ分岐ス、其一枝ヲ生殖枝アイルクハイルボガハト稱ス、外腸

乙子アイルクハイルボガハ

丙子アイルクハイルボガハ

解明

卷之十一

乙

甲子子子子子子子子子

乙子子子子子子子子子

丙子子子子子子子子子

丁子子子子子子子子子

戊子子子子子子子子子

骨動脈ノ内側ニ到リ、鼠蹊管ニ竄入シ、或ハ精系
 及ヒ畢丸ノ袍被、或ハ圓靱帶、陰阜及ヒ陰唇ニ彌
 蔓^一枝ヲ脚^脚枝^{ダク}リ^リユ^チラル^ト稱ス、外腸骨動脈
 ノ外側ヲ下行シ、^ボイ^パル^ハ靱帶ノ底下ニ到リ、
 股ノ前部ノ皮膚ニ布蔓ス、
 第四^外皮神經^ニキ^ステ^ルキ^ユハ^第二^三ノ
 兩對腰神經ヨリ來リ、腸骨筋ヲ横行シテ、腸骨ノ
 前上棘狀突起ノ下方ナル截間ニ到テ、腹腔ヲ出
 テ、^同靱帶^ノ底^下ニ於テ、股筋莖ヲ穿貫
 シテ、兩枝ニ分歧ス、其一枝ハ股ノ外部ナル皮膚

甲子子子子子子子子子

ニ布蔓シ、一枝ハ股ノ前部皮膚ニ布蔓シテ、膝ニ
 達ス

第五^鎖孔神經^トグ^子ル^ユラ^ハ第^二第^三第^四對腰

神經ヨリ來リ、免筋ノ内縁ノ底下ヨリ出テ、骨盤

ノ側方ニ沿テ走リ、鎖孔動靜兩脈共ニ鎖孔膜

ノ孔ヲ通過シテ、股ニ到リ、兩枝ニ分歧シ、其一枝

ハ大内送筋、外鎖孔筋ニ布蔓シ、且ツ股關節ニ織

維ヲ分與ス、一枝ハ長短内送筋、耻骨筋及ヒ薄股

筋ニ布蔓シ、股ノ内側ニ於ケル皮膚ニ、纖維ヲ分

授^ハ蓋^シ此^神經^ハ前^者ニ^比ス^レハ^大ナ^リ

甲子クリユリス

角音詩身

卷之十一

二

第六脚神經

クリユリス、毛、亦々第二三四對腰神經

ヨリ來ル兒筋ノ底下ヨリ出テ此筋ト腸骨筋ト
中間ノ溝中ヲ下行シ、「ボ」ハ此ト靱帶ノ底下
ニ到リ、骨盤腔ヲ出シ爰ニ於テ、股筋莖ノ底下、即
チ股動脈ノ稍外側ニ占據シ、「法」許多ノ枝別ト爲
レリ、蓋シ此神經ハ、腰叢ノ枝別中最大ナル者ニ
シテ、骨盤腔中ニ於テハ、腸骨筋ニ枝別ヲ賦與シ、
腔外ニ於テハ、四頭伸筋、縫匠筋及ヒ耻骨筋ニ枝
別ヲ派授シ、且ツ左ノ神經ヲ分與ス

中皮神經

ミットル、キユタニハ、縫匠筋及ヒ股

乙子キタニユリス

甲子キタニユリス

乙子キタニユリス

筋莖ヲ穿貫シ、股ノ前部、膝ニ至ル迄ノ皮膚ニ
布蔓ス

口内皮神經

タイニユトルナルキユ
ハ股動靜脈ヲ

横行シテ内方ニ下行シ、筋莖ヲ穿貫シ、股ノ内
部、膝ニ至ル迄ノ皮膚ニ布蔓ス

長母神經

ロンダグ、サグノハ、股動靜脈ニ伴ヒ、

下行シテ此脈ノ大内送筋ヲ穿通スル所ニ到
リ、乃チ辞シテ縫匠筋ノ底下ヲ下行シ、膝ニ到
リ、而シテ此筋ノ腱ト、薄股筋ノ腱トノ中間ニ
於テ筋莖ヲ貫穿シ、長母靜脈ト、共ニ脛ノ内側

解州川

卷之十一

二

又下行シテ跗ニ至ル其經歷中膝ノ上方ニ於
テ著明ナル一枝ヲ派付ス此枝ハ縫匠筋及ヒ
筋莖ヲ穿テ膝ヲ覆エル皮膚ニ布蔓ス自餘
ノ經歷中ニ枝別ヲ分播シテ脛及ヒ跗ノ内側
ヲ覆エル皮膚ニ布蔓ス此神經ハ前兩者ニ比
スレハ最大ナル者ナリ

薦骨神經

薦骨神經サクルニスハ五對アリ其大サ上ヨリ次
第二倍加ス而テ脊椎管中ニ在テ既ニ前後兩枝
ニ分岐スルヲ以テ頸背腰三神經ニ比スレハ殊

甲子サクルニス

異ナリ

后枝

ボラステリオル

ハ上方四對ニ於テハ同數ノ

后薦骨孔ヨリ出テ其第五對ハ脊椎管ノ末端ヨ
リ出ツ而テ皆十互ニ合吻シ且ツ尾底骨神經ノ
后枝ニ合シテ一列ノ環ヲ爲シ背伸筋及ヒ分裂

棘筋ノ初端及ヒ其近傍ノ皮膚ニ纖維ヲ播授ス

前枝

ブラステリス

ハ上方四對ニ於テハ同數ノ

前薦骨孔ヨリ出テ終對腰神經ノ前枝及ヒ第四
對腰神經ノ前枝ノ一部ト共ニ薦骨叢ヲ形成ス

其第五對ハ細小ニシテ脊椎管ノ末端ヨリ出テ

兩枝ニ分岐ス、其一枝ハ第四對腰神經ノ纖維ニ
 結合シテ、交感神經ノ下腹叢ニ終リ、一枝ハ尾底
 骨神經ニ終ル。山ニ為傍刺、前好又ノ脊四
 尾底骨神經 テ、ルシ、ダ、ス、ル、ハ、一、對、十、以、亦、又、脊、椎、管
 中ニ於テ、前後兩枝ニ分岐スルヲ以テ、頸背、腰三
 神經ニ比スルハ殊異ナリ。
 后枝 ボ、ラ、ン、テ、リ、オ、ル、ハ、脊、椎、管、ノ、末、端、ヨ、リ、出、テ、薦
 骨神經ニ合吻ス。
 前枝 ア、ラ、ン、テ、リ、オ、ル、モ、亦、夕、脊、椎、管、ノ、末、端、ヨ、リ、出

テ、第五對薦骨神經ノ一枝ニ結合シ、尾底骨筋及
 ヒ大薦坐軟帶ヲ穿貫シテ、其近傍腹ノ皮膚ニ終
 ル。此枝ハ、薦骨神經ノ前枝ニ比スレハ、尚才小ナ
 リ。
 薦骨叢
 薦骨叢 レ、サ、ク、ラ、ユ、ス、ハ、上、方、四、對、薦、骨、神、經、及、ヒ、終
 對腰神經兩前枝ト第四對腰神經ノ前枝ノ一部
 トノ結合ニテ形成シ、三角狀ニシテ梨子狀筋ニ
 占據シ、骨盤筋莖ニテ内腸骨脉及ヒ其近傍ノ諸
 臟ト分界シ、大薦坐孔ヲ通過シテ、骨盤腔ヲ出テ、

多分大坐骨神經ト爲リ終ル蓋シ此叢ノ分隊中
 ニ就テ、下方ノ腰神經ト、薦骨神經ニテ形成スル
 者ハ大キシテ、第三對薦骨神經ニテ形成スル者
 ハ細小ナリ、第四對薦骨神經ニテ形成スル者ハ
 其大サ前者ノ半バニ居レリ
 此叢、其下部ヨリ交感神經ノ下腹叢、梨子狀筋内
 鎖孔筋、肛門舉筋、肛門括約筋、仔筋及ヒ方股筋ニ
 枝別ヲ賦授ス、且ツ左ノ神經ヲ分與ス
 上臀神經
 陰具神經
 小坐骨神經
 大坐骨神經

甲子グリテノスルリオル

第一 上臀神經 ソペリオルグリ
 ヨリ來リ、殿動靜脈ト共ニ大薦坐孔ノ上部ニ於
 テ、骨盤腔ヲ出テ、兩枝ニ分岐シ、中殿大殿ニ筋ノ
 中間ヲ進行シテ、此兩筋ト股策張筋ニ布蔓スル
 第二 陰具神經 ピユグス
 ハ、薦骨叢ノ下部ヨリ來
 リ、梨子狀筋ノ下部ニ於テ、大薦坐孔ヲ通過シ、骨
 盤腔ヨリ出テ、坐骨棘ニ沿テ、后方ニ廻轉シ、小薦
 坐孔ヲ穿去シテ、骨盤腔ニ復歸シ、内陰具動脈ト、
 坐骨直腸窩ノ上部ヲ伴行ス、而テ其枝別ハ、左ノ
 如シ

イ下痔神經 ロインダル子ルグヘモハ、前者ノ初端

ヨリ來リ、小薦坐孔ヲ穿過シテ前者ノ幹ニ伴

ヒ、直腸ノ末端ニ下行シ、肛門括約筋及ヒ其近

傍ノ皮膚ニ布蔓ス蓋シ此神經ハ直チニ薦骨

鼓ヨリ來ルヲアリ

口會陰神經 ルペリニグハ、淺深二般ノ枝別ヨリ

成リ淺枝別 ルソペルシアシアハ、會陰ノ皮膚ニ布

蔓シ深枝別 ラデチブスハ、會陰及ヒ陰莖ノ筋ト、

陰囊ノ后部ニ布蔓ス、女子ニ於テハ、陰及ヒ肉

様尖ノ筋ト前庭、大小兩陰唇ニ布蔓ス

ハ陰莖背神經或ハ肉様尖神經 グドルサル子ル

ク、ヲア、ヲス、ハ、同名動脈ニ伴ヒ、蜂窩躰ト、海

綿躰ノ中間ヲ通過シテ、陰莖或ハ肉様尖ノ背

ニ到リ、進シテ龜頭ニ達ス、而テ蜂窩躰、海綿躰、

龜頭、前皮、陰莖ノ皮膚、或ハ小陰唇ノ上部ニ布

蔓ス

第三、小坐骨神經 チスキ、子ルグヘモハ、薦骨叢ノ下部

ヨリ來リ、梨子狀筋ノ下部ニ於テ大薦坐孔ヲ通

過シテ、骨盤腔ヨリ出テ、股脛ヲ下行シ、其經歷中

上方ニ於テハ、大殿筋ノ底下、ニ在テ下殿神經及

解リ

ヒ陰具神經ヲ分付シ而后千股筋莖ノ底下ヲ下
行シ過饒且ツ細微ナル皮枝ト爲リテ股筋莖ヲ
穿貫シ其近傍股脛ノ皮膚ニ布蔓ス

甲子分ニテ、イニ存オス

〔イ〕^甲下腎神經 ユイニテ、ルリ、グ、リ、ハ、尋常其數ニ

個アリ、前者ノ初端ヨリ來リテ、大殿筋ニ布蔓

ス蓋シ此神經ハ、前者ニ接シテ直チニ薦骨叢

ヨリ來ルル有リ

乙子キエトテ、スボス、テリオ

〔ロ〕^乙陰具神經 ルユ、子、ル、ダ、ハ、坐骨結節ノ下部ニ

沿テ、前方ニ彎曲シ、陰囊或ハ陰唇ニ布蔓此

神經ハ、前者ニ比スレハ大ナリ

甲子シテ、スボス、テリオ

第四^甲大坐骨神經 チキ、子、ル、ダ、ハ、梨子狀筋ノ下

部ニ於テ、大薦坐孔ヲ經過シ、骨盤腔ヲ出テ坐骨

結節ト大轉子ノ間隙中央ヲ下行シ、股ノ后部ニ

沿テ、其下部ニ到ル爰ニ於テ、内外兩膝膈神經ニ

分岐ス而シテ、其分岐スルヤ、其初端ト股ノ下部

トノ間、十全一定ノ點ナシ此神經ハ、薦骨叢ノ延

展ニシテ、身軀中最大ナル者ナリ

此神經、股ヲ下行スル間、股關節ニ關節纖維 チアキ

メ、ト、別賦シ、諸屈筋及ヒ大内送筋ニ筋枝

マ、ス、キ、子、ル、ダ、ハ、分與ス、

解リ、

甲子ボイテタキスニリス

外膝膈神經アキスニテル子ルダハ斜ノニ膝膈ノ

外部ヲ下行シ輔腿骨ノ頭下ニ到リ此骨ト長輔

腿骨筋トノ中間ヲ通過シ天前小腿骨神經ト筋

皮神經トニ分岐シ其經歷中膝膈關節ニ數個ノ

關節枝アライチキスト脛ノ外部ニ一對ノ皮枝

乙子コムニユニカマフヒ

ス、ブ、ラ、ン、チ、ス、ヲ、分、與、シ、且、ツ、輔、腿、骨、交、通、枝、ニ、ベ、ロ、

ル、コ、ム、ニ、ユ、ニ、ケ、ル、ヲ、生、ス、此、交、通、枝、ハ、脛、ノ、后、部、

ヲ、下、行、シ、天、短、母、神、經、ニ、合、吻、シ、蓋、シ、此、神、經、ハ、前、

者、ノ、小、ナル、末、枝、ナリ

丁子ボリスノイオ

前小腿骨神經アンテリオルチハ長大趾伸筋ノ

底下ヲ通過シテ骨間膜ノ前部ニ到リ前小腿骨

脈ト共ニ脛ヲ下行シ踝關節ノ前部ニ於テ兩枝

ニ分岐シ其一枝ハ短諸指伸筋ニ布蔓シ一枝ハ

足背動脈ニ從テ足ノ内部ニ布蔓シ此神經ハ其

經歷中近傍ノ諸筋ニ纖維ヲ分與ス

筋皮神經マスキユロキユタハ輔腿骨筋ト長大

趾伸筋トノ中間ヲ下行シ此筋ニ枝別ヲ付與シ

脛ノ前部ノ下方三分一ニ到リテ筋莖ヲ穿通シ

皮下神經トナリテ尚オ下行シ兩枝ニ分枝シテ

足背趾背ノ皮膚ニ布蔓ス

甲子マスキユロキユタニリス

足背趾背ノ皮膚ニ布蔓ス

甲 子ホノテウネニシテ

角音詩蒙

卷之十ノ

内膝膈神經 イントルナルガハ 大坐骨神經ノ

大末枝ニシテ其方向ヲ取リテ膝膈ノ中央即チ

其脈ノ表位ニ占據シ膝膈筋ノ下縁ニ到リ乃チ

后小腿骨神經ノ名ヲ受シ其經歷中膝膈筋ニ三

個ノ關節枝 ブアチキユラ ヲ派付シ腓腸履底足

蹠膝膈四筋ニ筋枝 ブラスキユラ ヲ分與シ兼テ短

母神經ヲ生ス而テ亦タ短母神經ノシヨルトサレ

ヲ分與ス此神經ハ腓腸筋ト筋莖ノ中間ヲ下行

シ殆ト脛ノ中央ニ到ル筋莖ヲ穿貫シ皮下神經

ト爲リ而後チ尋常外膝膈神經ノ輔腿骨交通枝

乙 子ホノテウネニシテ

丙 子ホノテウネニシテ

角音詩蒙

卷之十ノ

内膝膈神經 イントルナルガハ 大坐骨神經ノ

大末枝ニシテ其方向ヲ取リテ膝膈ノ中央即チ

其脈ノ表位ニ占據シ膝膈筋ノ下縁ニ到リ乃チ

后小腿骨神經ノ名ヲ受シ其經歷中膝膈筋ニ三

個ノ關節枝 ブアチキユラ ヲ派付シ腓腸履底足

蹠膝膈四筋ニ筋枝 ブラスキユラ ヲ分與シ兼テ短

母神經ヲ生ス而テ亦タ短母神經ノシヨルトサレ

ヲ分與ス此神經ハ腓腸筋ト筋莖ノ中間ヲ下行

シ殆ト脛ノ中央ニ到ル筋莖ヲ穿貫シ皮下神經

ト爲リ而後チ尋常外膝膈神經ノ輔腿骨交通枝

メロニールコムニユニ ケイチングブランチ ヲ受ケ短母靜脈ト共ニ

跗ノ外側ニ下行シ爰ニ布蔓ス

后小腿骨神經 ビボアトルオリ ハ膝膈ノ下端ヨ

リ内膝膈神經ノ延長スル者ニシテ后小腿骨脈

ト共ニ脛ノ后方ヲ下行シ内踝ノ后方ニ於テ内

外兩足蹠神經ニ分岐シ其經歷中后小腿骨筋及

ヒ長諸趾伸筋ニ筋枝 ブラスキユラ ヲ分授シ踵ノ

皮膚ニ皮枝ヲ付與ス

内足蹠神經 ライントルナル ハ同名ノ動脈ト共

ニ足蹠ヲ進行シ短諸趾屈筋大趾内送筋及ヒ足

甲 子ホノテウネニシテ

角音詩蒙

卷之十ノ

内足蹠神經 ライントルナル ハ同名ノ動脈ト共

ニ足蹠ヲ進行シ短諸趾屈筋大趾内送筋及ヒ足

躡ノ皮膚ニ枝別ヲ分與シ、躡骨ノ后方ニ於テ四
 個ノ躡神經デレツダスルニ分岐ス、其一個ハ大趾ノ
 内側ニ沿テ走り余ノ三個ハ次位同數ノ躡骨間
 隙ヲ前方ニ進行シ、各々兩枝ニ分岐シテ次位三
 趾ノ相接スル側ニ布蔓ス蓋シ此躡神經ハ皆十
 短大趾屈筋及ヒ近傍ノ蟲狀筋ニモ布蔓ス

外足躡神經

エキステルナル

ハ短諸趾屈筋ト

副屈筋ノ中間ヲ通過シ、足ノ外側ニ到ル其徑歴
 中、短諸趾屈筋、副屈筋、小趾ノ諸筋、大趾内送筋、骨
 間筋、横筋及ヒ外蟲狀筋ニ筋枝マスキユスヲ分

甲

與シ、且ツ足躡ノ外部ニ皮纖維キユタニユトヲ
 別授シテ、自ラ兩躡神經デレツダスルニ分岐ス、而シ
 テ此躡神經ハ、小趾ノ外側、及ヒ小趾ト次趾ト相
 接スル兩側ニ布蔓ス蓋シ此足躡神經ハ、后小腿
 骨神經ノ末枝中細小ナル者ナリ

交感神經統系

交感神經統系

シ、ン、パ、ジ、キ、ス、ハ、腦脊髓神經

統系ノ如ク兩側對位ノ者ニシテ兩個ノ神經節
 條ヨリ成リ、多分身軀大腔中諸臟ニ布蔓ス、其神
 經ハ、腦脊髓神經ニ比スレハ、概テ細小ニシテ強

甲

散著明ナラス、通常灰色ヲ呈シ、許多人神經節又
 具有シ、過饒ノ結締織ニテ、其近傍ノ組織ニ固着
 ス、テガ、ン、コ、グ、リ、ド、エ、ハ、身軀ノ右側、即チ脊椎
 柱ノ兩側ニ位シ、互ニ併行シテ薦骨上ニ下行シ、
 爰ヨリ漸次ニ會合シ、神經節ト爲リ尾底骨ニ占
 據シ、其神經節ハ、頸部ニ於テハ唯々三個有リテ、
 自餘ハ其數脊椎柱ノ椎片ニ配シ、皆十兩統系神
 經纖維ノ錯綜ヨリ形成セル短矮細微ナル神經
 ニテ、其近傍ノ腦脊髓神經ニ結合シ、其神經ハ多

久其近傍血管ノ徑歴ニ從ヒ、其所領ノ部位ニ到
 ルト雖、凡巨大且ツ許多人者ハ錯綜シタル三個
 ノ叢ヲ形成ス、ニ、テ、ハ、故チ内臟叢、ハ、亦
 此三叢ハ、兩側匹同ニシテ、脊椎ノ前面ニ於テ胸
 腔、腹腔及ヒ骨盤腔中ニ位シ、兩統系ノ神經ニ交
 通シ、許多ナル神經節ヲ具有シ、許多ナル小叢ト
 爲ル、ハ、上方ヨリ之ヲ算起セハ、心叢、太陽叢及ヒ
 下腹叢是レナリ、其小叢モ亦夕其近傍血管ノ徑
 歴ニ從ヒ、其所領ノ部位ニ到ル
 此神經節條ハ、其徑歴中所領ノ部位ニ從テ、頸背

解り

卷之十一

二十一

腰薦骨四部ニ分テ其叢ハ三個ヲ區別シ辨説
便ナラシメ又以下之ヲ論ス

頸部交感神經ハ頸椎前面ノ諸筋及ヒ大血管ノ
后方ニ占據シ三個ノ神經節ヲ具有ス其部位ニ
從ヒ之ヲ上中下頸神經節ト稱ス

上頸神經節

カシペリカニバルセリ

ハ形如紡錘狀

シテ頸椎ノ第二第三片ノ前方内頸動脈ノ后方
即チ大直筋ニ占據シ數個ヲ纖維ニテ上方四個
ノ脊髓神經舌咽頭神經ノ岩狀神經節肺胃神經

甲
カシペリカニバルセリ
カシペリカニバルセリ

甲
アラモスアスセニデス

ノ神經節及ヒ舌下神經ニ結合シ而テ中頸神經
節ニ交通シ上行脈絡ノ二枝及ヒ咽頭上心兩神
經ヲ分與ス蓋シ此神經節ハ三個中最大ナル者
ナリ

第一 上行枝

ガアブスラセニチテハ内頸動脈ニ伴行ス

ル交感神經ノ連續ニシテ顛顛骨ノ頸動脈孔ヲ
通過シ二枝ニ分ル此枝亦々再分シ互ニ動脈ノ
周圍ニ於テ交通シ以テ頸動脈叢レカロヲツド
ヲ形成ス此叢ハ一二個ノ纖維ニテ外送神經ニ

結合シ且ツ翼狀神經ノ深岩狀枝ニテ翼狀口蓋

解川

卷之十一

三十一

甲子ルウキモル

神經節ニ締結ス而テ尚オ頸動脈上ヲ連續進行
 シテ蜂窩竇ニ到リ蜂窩竇叢パカレヴェキシルニスヲ形
 成ス此叢モ亦々細微ナル纖維ニテ三枝神經ノ
 半月様神經節動眼神經滑車神經眼神經及ヒ眼
 神經節ニ結合ス蓋シ此兩叢モ亦々此ニ細微ナ
 ル纖維ヲ生シテ此動脈ノ枝別ニ伴行セシム
 第二脈絡枝ウエスキユラハ外頸動脈ヲ纏絡シテ
 枝上ニ叢ヲ形成シ顔面動脈ト内腭動脈上ノ叢
 ニテ腭下神經節及ヒ耳神經節ニ交通ス
 第三咽頭神經スハレンジハ二個或ハ三個有リ

乙ラリスレンジ

甲子カリスレンジ

テ咽頭ノ側方ヲ下行シ舌咽頭肺胃兩神經ヨリ
 來レル枝別ト共ニ咽頭叢アレキシルヲ形成
 シ以テ咽頭ノ諸筋ト粘膜ニ布蔓ス
 第四上心神經ジッパク子ルダハ上頸神經節及
 ヒ其條ヨリ來リ大血管ノ后方ヲ下行シテ胸腔
 ニ竄入ス而テ右側ニ於テハ鎖骨下動脈ノ前方
 或ハ其后方ヲ通過シ而后チ無名動脈ニ沿テ大
 動脈弓ニ到リ心叢ノ深部ニ終シ左側ニ於テハ
 頸動脈ニ沿テ大動脈弓ニ到リ心叢ノ表部ニ終
 シ此神經其徑歴中肺胃神經ヨリ枝別ヲ受容シ

解剖川

卷之十八

三十一

甲 カサリセルル併カ
レメジユス

乙 カサリセルル併カ
レメジユス

丙 カサリセルル併カ
レメジユス

角部高家 卷之十一 三十三

下甲狀動脈ニ纖維ヲ分與ス
 中頭神經節ニシテ下頭椎ノ第五片ニ
 對シテ下甲狀動脈ニ占據シ下頭神經節ニ結合
 且ツ數個ノ纖維ニテ第五六兩脊髓神經ニ結
 合ス而テ下甲狀動脈ニ枝別ヲ併セテ中心神經
 ヲ分與ス蓋シ此神經節八間下頭神經節ニ附着
 シ細小ニシテ著明ナラサルアリ中心神經ニ
 シ細小ニシテ著明ナラサルアリ中心神經ニ
 アク子ルルザ頭ノ下部ヲ下行シ上下心兩神經及
 ヒ肺胃神經ニ交通シ心叢ノ深部ニ終ル
 下頭神經節クイルガニグオリヲシハ形千五整十

甲 カサリセルル併カ
レメジユス

ル平月様ニシテ脊椎動脈ノ后方即チ頸椎終片
 ノ横突起ト肋骨初片ノ中間ニ位シ數枝ニテ第
 一背神經節及ヒ第七八兩脊髓神經ニ交通ス而
 テ纖維ヲ付授シテ脊椎動脈ニ伴行スル叢ヲ形
 成シ且ツ下心神經ヲ分與ス下心神經オイルカ
 ジイルハ中心神經及ヒ下喉頭神經ニ交通シ而
 后チ心叢ノ深部ニ終ル間第一背神經ヨリ枝別
 ヲ受容スルアリ右側ニ於テハ或ハ屢中心神經
 癒着スルヲ有リ

心叢

三十三

甲
子スプランチニコスト
左リオル

節ヨリ來リ、前者ニ伴行シテ、横隔ヲ穿貫シ、大陽
叢ニ終ル

第三内臟神經ソノド、スプラシハ終背神經節ヨ
リ來リ、横隔ヲ穿貫シテ、腎叢ニ終ル。蓋シ此神經
間、消滅シ、前者ノ一枝ニテ之ニ代ルヲ有リ

大陽叢

大陽叢キソラエスプレハ、胃ノ后方、即チ大動脈ト、横
隔脚ノ前方ニ位シ、内臟動脈及ヒ上腸間膜動脈
ノ初端ヲ圍擁シテ、兩副腎ノ間々ニ瀰漫ス。其神
經ハ甚々錯綜シ、兩側各、大小兩内臟神經ト、肺胃

乙
プレキシユスツリス

甲
カシグリヲセミリテ

神經ノ纖維ヲ受容シ、數個ノ神經節ヲ具有ス。此
神經節ハ、其大小ト數トハ一定セス。中ニ就テ通
常著ルシキ一異形ナル者有リ之ヲ甲半月様神經
節ガシグリユナト稱ス、内臟動脈及ヒ上腸間膜
動脈ノ側方ニ位シテ、大内臟神經ヲ受容ス。蓋シ
此叢ハ、交感神經ノ叢中最大ナル者ニシテ、即チ
過饒ノ纖維ヲ諸方ニ分播スル恰モ大陽ノ光線
ヲ放射四散スルカ如シ、故ニ大陽叢ト稱ス
此叢夥多ナル神經ヲ生シ、其近傍動脈ノ徑歴ニ
從ヒ、脈上ニ小叢ヲ形成シテ、其所領ノ内臟ニ布

蔓スル左ノ如シ、ハ、其初端ノ内臓ニ

横隔叢レフキニユス、ハ兩側ノ同名動脈ニ從ヒ、横

隔ニ布蔓スハ、其初端ニ大動脈ニ

冠叢レロキシユス、ハ、肝叢レハキパキユス、ハ、及ヒ脾叢レハ

脾ニ布蔓スハ、モ亦タ同名動脈ニ從ヒ、胃、肝、脾及ヒ

副腎叢レハ、副腎ニ布蔓ス、蓋シ此叢

ハ其所領ノ内臓ニ比較スレハ大ニシテ通常一

個人ノ神経節ヲ含有スハ、

腎叢レハ、同名動脈ニ從ヒ腎ニ布蔓ス

ハ、

此叢ハ第三内臓神経ヲ受容シ、數個ノ小神経節

ヲ含有ス、爰ニ一個ノ崩蘖有リテ、精系動脈ノ徑

歴ニ從ヒ、畢丸ニ布蔓ス、之ヲ精系叢ハ、

上腸間膜叢レハ、同名動脈ニ

從ヒ、大小兩腸ニ布蔓ス、此叢ハ其初端ニ數個ノ

小神経節ヲ含有ス

大動脈叢レハ、大動脈上ヲ下行シテ

其兩側直子ニ腎叢ニ結合シ、腰神経節ヨリ來レ

ル枝別ヲ受容シ、下腹叢ニ終ル此叢ハ、太陽叢ノ

解別川

延展スル者ナリ、下腹叢ニ於テ此叢ハ大腸叢
下腸間膜叢テイシキプリオルキシユスハ前者ヨリ來
リ、同名動脈ニ從ヒ、大腸ニ布蔓ス

腰部交感神經

腰部交感神經ハ背部ノ延展ニシテ兜筋起點ノ
前縁ニ沿ヒ、腰椎ノ側方ニ占據ス其神經節ハ四
個或ハ五個有リテ、形チ細長ナル卵圓狀ナリ、各
一對ノ交通纖維ニテ、其近傍ノ腰神經ニ結合シ、
且ツ近傍ノ大動脈叢及ヒ下腹叢ニ枝別ヲ付ス
薦骨部交感神經

薦骨初交感神經ハ、前薦骨孔ノ内側ニ位シ、尾底
骨前面ノ一個ノ小神經節ニ終ル其神經節ハ、通
常四個有リテ、其大サ逐次ニ減ス而テ各一對ノ
交通纖維ニテ、近傍ノ脊髓神經ニ締合シ、且ツ下
腹叢ニ枝別ヲ附ス

下腹叢

下腹叢ハイポガストリキハ、兩普通腸骨脈ノ中間
ニ位シ、直腸ノ兩側ニ達ス蓋シ此叢ハ大腸叢ニ
比スレハ、多ク錯綜シテ、大動脈叢ノ末端ト、下方
ノ腰神經、薦骨神經節、下方二三個ノ薦骨神經及

甲
ハイポガストリキ

解剖学 卷之八 三二二

甲 プレキシユス、ウシカリス
エト、プロスタチコス

乙 プレキシユス、ウシカリス
エト、ウジナリス

丙 プレキシユス、ユテリス

ヒ中腸間膜叢^甲ヨリ來レル枝別^乙ニテ形成シ、麤

糲ナル許多ノ結締織ヲ混合シ、細小幽微ナル數

個ノ神經節ヲ含有シ、且ツ左ノ小叢ヲ分與ス

膀胱攝護腺叢^甲 ウシカリス、プロスタチコスハ、膀胱ノ側方

攝護腺ト精囊ニ布蔓ス

膀胱腔叢^乙 ウシカリス、ウジナリスハ、婦人ニ在リ前者ニ

代ユル者ニシテ、腔ト膀胱ノ側方ニ布蔓ス

子宮叢^丙 ウシカリス、ユテリスハ、廣韃帶ノ兩層間ニ布蔓

シテ、子宮ニ達ス

解剖訓蒙卷之十八終

明治六年九月免許
同 十一月刻成

越再墨連士氏 口述

栖雲松村矩明 筆録

啟蒙義舎藏版

發兌書肆

大坂心齋橋通唐物町

浅井吉兵衛

